資料 2-2

260924_第３回駅まち空間デザインプロジェクトチーム　意見等に対する対応の考え方

No.	意見等要旨	意見等に対する対応の考え方
■WEB アンケート結果について		
1	○利用者傾向について ・回答者が市内居住者の割合が高く、市外・県外の来訪者や観光客などの傾向も踏まえる必要がある。利用ニーズに加えて、案内機能、防災、防犯の面も加味していただきたい。（島委員・JR）	・本調査結果のみで方針は決定するものではないが、観光客などの利用実態も踏まえて検討を行う。（事務局）
■広場デザインの方向性について		
2	○要素スケールで示された技術や産業について ・歴史的要素を引用するだけではなく、現在も残る技術を取り入れると良い。現在の状況も調査して技術や素材を取り入れていけると良い。（小野寺会長）	・ご指摘を踏まえ、広場デザインに取り込んでいく。（事務局）
3	○お城口、アルプス口の空間テーマについて ・お城口の「細やかな空間」とアルプス口の「おおらかな空間」は単純な面積の違いではなく、空間的な大きさや開放感の違いもあると考える。（島委員・JR） ・お城口側は市街地として密度が高く、アルプス口側は北アルプスを見渡せるため、方向性としては理解できる。一方で言い切ることで拾えなくなる要素もある。（小野寺会長）	・空間デザインの方向性としてまとめ、それぞれの目指す姿を検討を行った。 ➡【資料３】
■施設配置素案について		
4	○あがたの森通り沿いの路線バス待機について ・景観上望ましくなく、ロータリーに戻る動線にも課題があり、配置を再検討すべき。（島委員・JR） ・路線バスの待機場を確保する必要性は以前から指摘があり、場所と運用を検討してほしい。（小野寺会長）	・路線バス待機場は現在停留所として利用されている場所を図示しているため、資料を修正した。➡【資料３】 ・待機場についてはお城口路線バスロータリーやしらかば大通りも含めて検討を行う。
5	○アルプス口 大型バス・新たな機能を想定するエリアについて ・ロータリーを降車中心にして、乗車・待機を別の場所にしてはどうか。修学旅行等の繁忙期に対応できるように、10 台以上確保できると良い。新たな機能を想定するエリアを立体利用し、その下部を一般車の乗降場所等と活用してはどうか（斎藤委員・アルピコ交通） ・アルプス口の大型バスは乗車・待機スペースが必要であるが、乗車場所を遠くすると高齢者等の負担になる。ロータリー内は待機を行わず、乗車時のみ進入するなど、限られた空間を有効に使う運用を検討する必要がある。（小野寺会長） ・前面道路の基盤が弱いため、道路を改修する場合は歩行者機能も併せて整備しなければ、地元の理解は得にくい。既存の歩行者動線との共存も検討が必要である。（小野寺会長） ・西口が眺望、商業活動、交通処理を兼ねた安全で魅力的な場所になり、各関係者にメリットが生まれれば、プロジェクトが前進する。（小野寺会長） ・交通処理だけでなく、アルプス口の広場空間や周辺道路も含	・今後交通施設の必要面積を定めた上で、立体利用を行った場合の検討を進めていくが、最終的な規模は、基本計画段階で各事業者との協議を踏まえ、確定する。基本構想の段階では、駅前広場東西の役割と機能配置について方向性を定めたい。➡【参考２】

No.	意見等要旨	意見等に対する対応の考え方
	め、一体的につくり込む必要がある。（島委員・JR）	
6	**〇お城口 デッキ案について** ・タクシープールをバスロータリーの上に２層でつくり美ヶ原への眺望のためにデッキする案も意見としてあった。（市交通部長） ・反対側の建物で受けられず、効果が薄い。（小野寺会長） ・地上が使われにくくなる。駅ビルの柔軟な改修整備の可能性を狭める。（島委員・JR）	・これまでの議論を踏まえ、お城口の駅前広場とまちの接続性向上について構想案で比較表を示し、トランジットモールの方向性を打ち出していく。➡【資料３】
7	**〇お城口 バスとタクシーの分離について** ・バスとタクシーを分離し、タクシーロータリーを設けると広場空間が狭くなる印象がある。（島委員・JR） ・広場内の車道も舗装デザインにより歩道と一体的にも見せることができる。本案でも動線を考慮してオープンスペースの計画が可能である。（小野寺会長）	・タクシー事業者とのやりとりも踏まえ、ショットガン方式による、路線バスロータリーとタクシー乗降場を分離した形態での配置案を検討する。➡【資料３】
8	**〇お城口 駐輪場の位置について** ・路線バスロータリー側の位置に置く必然性はあるか。（島委員・JR） ・松本は自転車利用がしやすい都市である。駅前へアクセスしやすく、駐輪場まで円滑に移動できる動線確保が重要である。地下や機械式なども含めて、効率的な配置を検討する余地がある。（小野寺会長）	・最終的な規模と位置については、基本計画段階で各事業者との協議を踏まえ、検討・確定する。基本構想の段階では、駅前広場東西の役割と機能配置について方向性を定めたい。➡【資料３】
9	**〇お城口　立体利用について** ・駅ビルの老朽化への対応と併せて、建物のセットバックや張り出し、立体利用などにより、交通結節機能とにぎわいを両立する余地を残して欲しい。（島委員・JR） ・姫路駅のように、建物の１階部分をピロティとし交通ロータリーとする配置もある。（小野寺会長）	・現時点では一つの案に決めうちせず、複数バリエーションでのアイディアを持っておきながら検討を進める。（事務局・小野寺会長）

以上